

**中山間地域等における企業の
社会貢献活動(CSR)の取組手引書
～実践編～**



平成26年3月

中国圏広域地方計画推進室
(国土交通省 中国地方整備局 企画部 広域計画課)

はじめに

中国地方の農山村漁村をはじめとする中山間・島しょ部地域（以下「中山間地域等」と言う。）は、豊かな自然環境を有し、伝統文化が息づく魅力的な地域であり、国民全ての貴重な財産となっています。

このような中山間地域等においては、人口減少・少子高齢化が進み、集落内の住民だけでは共同作業を行うことが困難になっている状況もみられ、このまま放置されると、地域の衰退や集落の消滅、山林や農地の荒廃等が危惧されます。また、山林や農地の荒廃等によって、中山間地域等有する国土保全や洪水防止等の機能が低下し、土砂災害や洪水被害等が発生する頻度が高まる等、国民全体の生命、財産、豊かな暮らしが脅かされることとなります。

一方、企業の活動領域の多様化に伴い、社会に対する影響力が増す中で、CSR（企業の社会的責任：Corporate Social Responsibility）に対する関心が高まっています。CSRの一つに位置づけられている企業の社会貢献活動では、中山間地域等を活動の場所とした様々な取組が進められ、地域の存続・維持、活性化等に寄与している事例が全国で見受けられます。

このような企業の社会貢献活動の更なる定着を図り、中山間地域等の存続・維持、活性化等につなげていくことが、地域等の抱える諸課題の解決における一つの方策として注目されつつあります。

中国圏広域地方計画推進室では、企業、地域住民、NPO、自治体等の関係者が、企業が取り組む社会貢献活動による中山間地域等の存続・維持、活性化等に取り組む際の手順や留意すべき点等を示すものとして、「企業の中山間地域応援のための取組手引書」（以下「取組手引書」と言う。）をとりまとめました。

本書は、その取組手引書から、活動を進めるための特に重要と思われる「コツ」を抜き出し、実践編として取りまとめたものです。

本書が、中山間地域等における企業の社会貢献活動に対する関心を高め、企業と地域が結びつき、双方が支えあう取組が活発になることで、中山間地域等の存続・維持、活性化等に寄与することを期待します。

取組手引書の作成にあたっては、中山間地域等における社会貢献活動の取組状況や意向等を把握するため、中国地方の企業、市町村・NPOへのアンケート調査を実施しました。

ご協力をいただきました企業、市町村・NPOの皆様に深く感謝いたします。

また、別冊の取組事例集の作成にあたって、ご協力を頂きました全国の企業の皆様に深く感謝いたします。

第一編 企業の方へ

社会貢献活動の概要

- ①中山間地域等で企業が社会貢献活動を行うことの効果は？ 1
- ②どのような手順で取組めばよい？ 2

ステップ1 社会貢献活動をはじめるための準備

- ③社内で社会貢献活動に取り組む意識を醸成するためには？ 3
- ④推進体制はどうすればよい？ 3

ステップ2 社会貢献活動を計画しよう

- ⑤活動手法はどのようなものがある？ 4
- ⑥活動種類はどのようなものがある？ 5
- ⑦活動場所を決めるには？ 6
- ⑧参加者を集めるには？ 8
- ⑨活動にはどのくらいの費用がかかる？ 9

ステップ3 社会貢献活動を試みよう

- ⑩活動当日のスケジュールはどのように組めばよい？ 10

ステップ4 社会貢献活動の評価・検証を行おう

- ⑪活動を定着・継続していくためには？ 11

社会貢献活動の概要

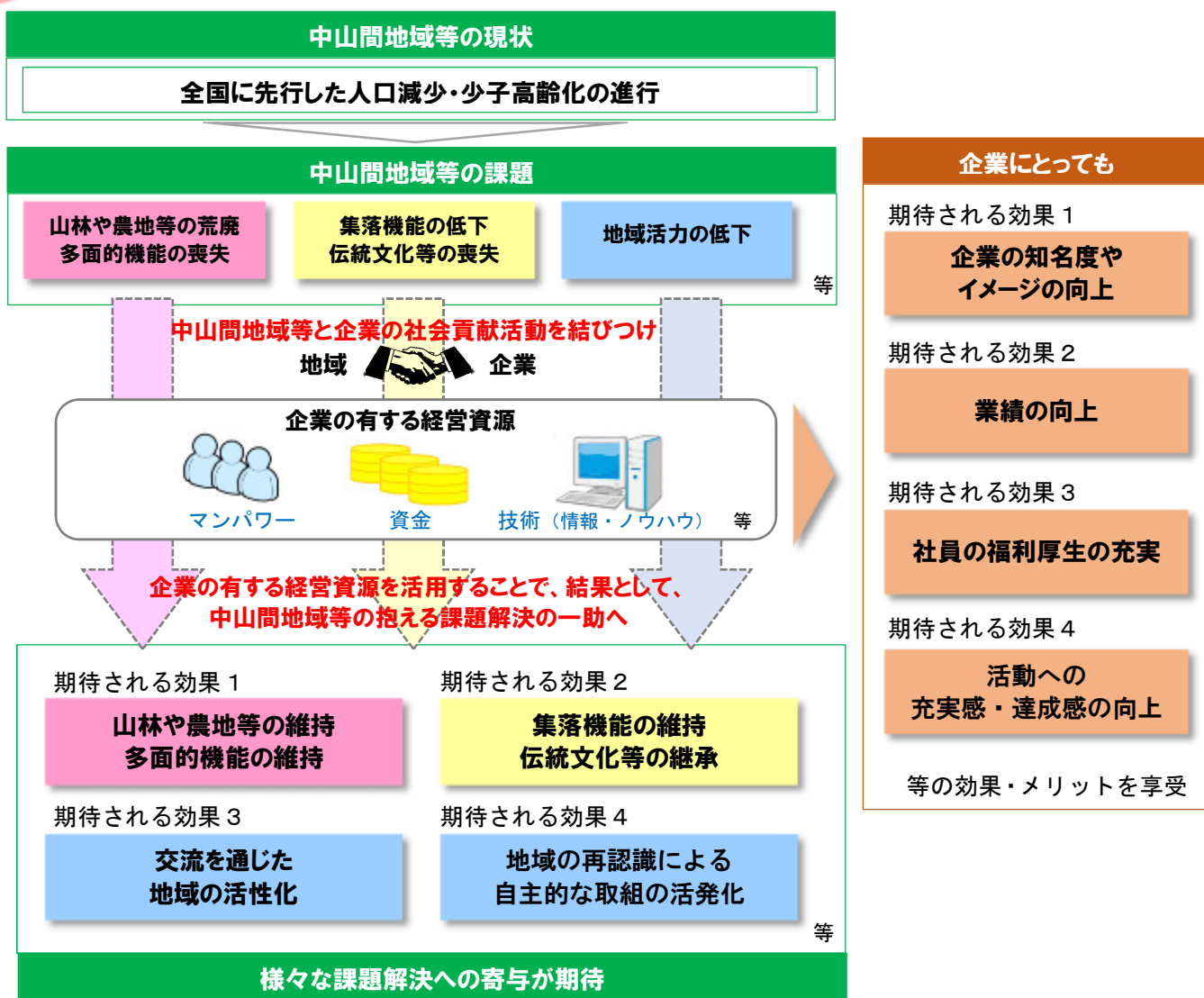
① 中山間地域等で企業が社会貢献活動を行うことの効果は？

Q 企業が中山間地域等で社会貢献活動を行うことの意義、効果にはどのようなことがありますか？

A 企業の社会貢献活動と中山間地域等を結びつくことによって、中山間地域等が抱える課題解決の一助となるとともに、企業、中山間地域等の双方に多様な効果が期待されます。

POINT

中山間地域等において企業が社会貢献活動を行う効果



取組手引書 P7

②どのような手順で取組めばよい？

Q. 企業として「社会への貢献を果たしたい」という“想い”を持ちましたが、どのような手順で取組めばよいのか分かりません。

A. 活動の基本的な流れ（準備⇒計画⇒実施⇒評価）を以下にお示しします。
個々の活動における具体の検討は、それぞれの企業・地域の特性や実情に応じて、適宜、創意工夫を行いながら進めていくとよいでしょう。

POINT

企業が社会貢献活動に取組む基本的な流れ

ステップ1 社会貢献活動をはじめるための準備



企業として社会貢献活動に取組む意識の醸成を図った上で、社会貢献活動の検討に向けた**体制づくり**を行います。

ステップ2 社会貢献活動を計画しよう



<2-1 活動の方向性を決めよう>

企業として、社会貢献活動に取組む条件整理を行った上で、どのような社会貢献活動に取組むかといった「**全体計画の検討**」を行い、企業内での合意としていきます。



<2-2 連携相手となる地域を探そう>

連携相手の候補となる地域の情報収集を行った上で、**地域との話し合いや現地視察により地域を選定し、合意を図る**ことで、連携相手となる地域を決めていきます。



<2-3 活動計画を作ろう>

連携相手となる地域との話し合いを行いながら、企業の社会貢献活動の実践に向け、**活動計画の作成**を行います。

ステップ3 社会貢献活動を試みよう



作成した活動計画に基づき、**地域との協働により活動を実施**します。

ステップ4 社会貢献活動の評価・検証を行おう



参加者や地域の意向把握を行うとともに、地域との話し合いを通じて、活動の継続や改善等に向けた検討に取り組み、**活動計画の見直し**を行います。また、活動結果を整理し、**幅広い情報発信**に努めます。



ステップ1 CSR活動をはじめするための準備

③社内で社会貢献活動に取り組む意識を醸成するためには？

Q。中山間地域等で社会貢献活動を行いたいと考えていますが、社内で取組を開始するための意識醸成が進みません。

A。社会貢献活動の必要性や社会貢献活動を行うことで得られる効果（企業PRや販売促進等）について担当課の社員と話し合い、理解を深めてもらいましょう。また、社内報や社内勉強会などを幅広く活用するなど、社員一人一人の意識醸成を進めていきましょう。

POINT 社会貢献活動に取り組む意識醸成に必要な視点

- ①中山間地域等における企業の社会貢献活動（CSR）とは何か
 - ・中国地方の中山間地域等が直面している課題に対し、企業が自発的に、人手や資金をはじめとする経営資源を投入し、中山間地域等が抱える課題解決の一助を担う活動を継続的に行うことと位置づけます。
- ②社会貢献活動（CSR）の取組によって得られる効果
 - 中山間地域等において期待される効果（山林や農地等の維持、多面的機能の維持等）
 - 企業において期待される効果（企業の知名度やイメージの向上等）
- ③自社における社会貢献活動（CSR）の必要性

取組手引書 P17

④推進体制はどうすればよい？

Q。企業として社会貢献活動に取り組みたいと考えていますが、具体的な推進体制はどのようにつくればよいのでしょうか？

A。社会貢献活動を所管する専門部署や担当者を配置することが望まれますが、中小企業等では、企業のトップ自らが窓口になる事例も見受けられます。企業の実態に応じた体制を検討していくとよいでしょう。

POINT 推進体制の構築例

- 社内の推進組織としては、以下のような形態が考えられます。それぞれの企業における社員構成等の実態を踏まえながら、無理のない組織として検討していくことが必要です。
- ①専属の部署を設立する
 - ②専属の担当者（事務局）を任命し、各部署からメンバー（兼任）が参画
 - ③担当者（兼任）を任命

取組手引書 P21

ステップ2 社会貢献活動を計画しよう

⑤活動手法にはどのようなものがある？

Q 企業として中山間地域等において社会貢献活動を行いたいと思いますが、こういった手法で取組めばよいのでしょうか？

A 企業と地域が協力・連携する手法は千差万別ですが、代表的なものとしては以下の3つの手法が挙げられます。
継続的な取組とするためには、企業として投入できる経営資源（人手、資金、技術（情報・ノウハウ等）を踏まえた上で、無理のない範囲での活動手法を検討していくことが重要です

POINT 代表的な活動手法

【人手（マンパワー）の提供（現地活動型）】

- ・環境保全活動や農地再生・農作業支援、集落の共同作業の支援等として、企業の社員やその家族等が地域に出向き活動を行う手法で・地域からのニーズも高い取組です。



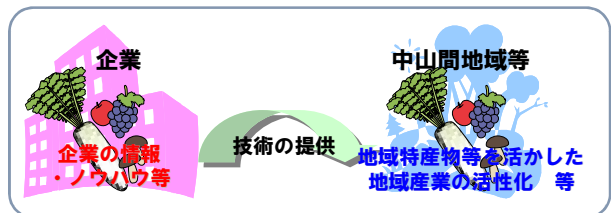
【資金等の提供】

- ・地域の活動等に対して資金や物品等の提供を行う社会貢献活動の手法です。



【技術（情報・ノウハウ等）の提供】

- ・企業の有する技術（情報・ノウハウ等）の提供を行い、中山間地域等を支援する社会貢献活動の手法です。



取組手引書 P27

⑥活動の種類にはどのようなものがある？

Q。活動手法は決まりましたが、具体的な活動内容がまだ決まっていません。どのような活動が考えられるでしょうか？

A。中山間地域等の維持・存続、活性化につながるような活動としては、主に「環境」に関わる活動、「産業」に関わる活動、「集落」の維持・活性化に関わる活動が挙げられます。
自社の得意分野や地域に貢献できる分野などから、活動内容を検討していきましょう。

POINT 具体的な活動の種類

①【環境】に関わる活動

・中山間地域等の持つ豊かな自然環境を保全するための活動です。

○具体的な活動

- ・森林保全（植樹・枝打ち・下草刈等）
- ・清掃・除草等の環境保全
- ・河川・水辺再生等の環境保全 等



下草刈による森林保全

②【産業】に関わる活動

・中山間地域等の主要産業の一つである農業や地場産業の活性化を支援する活動です。

○具体的な活動

農作業への参加

- ・耕作放棄地の復元・活用
- ・地域資源を活かした産業振興（技術（情報・ノウハウ等）の提供）
- ・地域産物の販売場所の提供
- ・地域産物の購入 等



耕作放棄地の活用

③「集落」の維持・活性化に関わる活動

・集落の共同作業の支援や祭事への参加等により、集落の維持・活性化や伝統・文化の継承などを支援する活動です。

○具体的な活動

- ・集落の共同作業（溝掃除、草刈り等）の支援
- ・地域行事・祭事の支援
- ・地域イベント等への出店
- ・地域の活動団体等への支援 等



地域行事への参加

⑦活動場所を決めるには？

Q1 企業として、取組みたい活動内容は決まりましたが、活動場所を探すのに苦労しています。

A1 まず、地域の情報を集めましょう。地域情報に詳しいのはやはり自治体等の行政機関が挙げられます。企業の社会貢献活動を支援している自治体も多く、担当部局は企画担当部局が多いようです。
また、中山間地域等で活動を行っていて、地域情報に精通しているNPOに問い合わせをするのもよいでしょう。

POINT 問い合わせ前に条件や要望の整理をしよう

活動に適した場所を紹介してもらうためにも、企業として取組みたい社会貢献活動の内容、活動場書の条件や要望等を事前に整理しておくことでスムーズに情報が収集できるでしょう。

□整理しておくよい項目

- ・希望する活動内容
- ・活動場所の条件
- ・地域に対する要望
- ・活動経費の算出に必要な項目 等

コラム 企業の社会貢献活動の支援に取り組んでいる市町村等（中国地方）

中国地方において、企業の社会貢献活動の支援に取り組んでいる市町村等は数多くあります。問い合わせ時の参考にどうぞ。

■企業の社会貢献活動の支援に取り組んでいる市町村等（中国地方）

都道府県	市町村	担当課	市町村	担当課
鳥取県	南部町	企画政策課	日南町	企画課
島根県	出雲市	政策企画課	益田市	経営企画部 地域振興課
	大田市	政策企画課	雲南市	政策企画部 政策推進課
	奥出雲町	企画財政課	隠岐の島町	企画財政課
岡山県	岡山市	中山間・地域振興課	真庭市	市民環境部 環境課
	早島町	企画課	奈義町	総務課
	吉備中央町	企画課	岡山県中山間地域協働支援センター(NPO)	
広島県	福山市	企画政策課	三次市	地域振興課
	廿日市市	分権政策部 総合政策課	安芸高田市	企画振興部 政策企画課
	北広島町	企画課	神石高原町	まちづくり推進課
山口県	光市	企画調整課	長門市	企画総務部 企画政策課
	柳井市	総合政策部 政策企画課	周南市	中山間地域振興課

※中国地方の全市町村に対してアンケート調査票を配布し、回答いただいた結果に基づく整理であり、これ以外の市町村においても企業の社会貢献活動に取り組んでいる場合があります。

取組手引書 P34

Q2. 活動候補地は絞り込めたのですが、最終決定をするまでにどのようなことをすればよいでしょうか？

A2. 活動地域の候補が絞り込まれたら、地域との話し合いや現地視察の機会を設けて、「企業のやりたいこと」と「地域が希望していること」が一致しているか、などお互いがパートナーとしてふさわしいかを確認し、活動地域を決定しましょう。

POINT 1 「お見合い」でお互いをしっかり理解しよう

活動地域を決めるための地域との話し合いや現地視察は、言わば、**企業と地域の「お見合い」**です。

この段階で、「企業のやりたいこと」と「地域が希望していること」、「できること・できないこと」などのお互いの思いをしっかりと確認・理解しておけば、いざ、活動をはじめた後に、「こんなはずではなかった」と、関係がギクシャクしてしまうこともないでしょう。

□確認しておくよい項目

- ・ 地域の課題、ビジョン
- ・ 自らの事業活動との関連性
- ・ 作業性や安全性 など
- ・ 地域の受入体制
- ・ 交通アクセス性

POINT 2 合意内容を明文化して共通認識を図ろう

活動の目的や内容、期間、役割分担といったことを明文化しておけば、活動に対する企業と地域の共通認識を図ることでき、同じ目標をもって活動に取り組みことができます。また、活動の継続性の担保や後々のトラブル防止等にも役立ちます。

この段階では、企業の社会貢献活動に取り組む際の大まかな方向性についての合意を図り、詳細な項目については、具体的な活動計画の作成時に検討を行うとよいでしょう。

なお、正式な書面を交わすことによって、活動の継続性等を担保することは重要なことですが、双方にとって重荷とならないものとするように、活動途中においても活動日程等を調整できるようにするなど、事業活動や地域の状況等によって柔軟に変更が可能となるようにするなど、配慮が必要です。

 取組手引書 P38

⑧参加者を集めるには？

Q、参加者募集のため、社内で募集案内をメール配信したり、チラシの配布を行ったりしていますが、なかなか参加者が集まりません。

A、社員が参加しやすい環境をつくることが重要です。
例えば、会社行事・業務の一環として位置づけて参加者を募集したり、社員の福利厚生を兼ねたイベントと組み合わせて企画したりするなど、工夫を凝らした募集を行っている企業もあります。

POINT1 会社行事・業務の一環とした活動

会社行事や業務の一環として社会貢献活動に取り組んでいる企業もあります。会社行事や業務の一環とすることで、強制的な参加となってしまいますが、「参加のきっかけ」を作るための手段の一つとしては有効かもしれません。一度でも活動に参加して、活動の意義や楽しさに触れれば、次からの自発的な参加につながる可能性もあります。

コラム 業務の一環として当番制で活動

ある企業では、業務の一環と位置づけ、年度当初に活動計画を立て、社会貢献活動への参加を当番制にして、各社員が年間で最低1回は活動に参加する機会を設けるようにしています。

POINT2 社員の福利厚生を兼ねたイベントと組み合わせた企画

社会貢献活動と社員の福利厚生のためのイベントとを組み合わせ企画している企業もあります。家族での参加が可能な活動内容としたり、食事会等で社員同士の交流を深めたりといった工夫を行っている企業が見受けられます。

コラム 家族で楽しめるイベントを充実

例1：「田舎暮らし体験」など、社会貢献活動の体験と同時に、福利厚生にもつながる活動を企画する。
例2：「ホテル観賞」「星空観賞」といったレクリエーション活動を企画に加える。

➡ 取組手引書 P50

⑨活動にはどのくらいの費用がかかる？

Q。活動計画を検討中なのですが、実際の活動にどのくらいの費用がかかるのか分からず、困っています。

A。社会貢献活動に必要となる費用は、活動の手法や種類、参加者の規模等によって様々なので、「この活動ならこれくらいの費用がかかる」とはっきりとはいえません。連携する地域や行政の担当部署などに相談すれば、地元をよく知る立場の人から経費の必要項目等に関して参考となるアドバイスがもらえるかもしれません。また、新たな資機材等の購入を行うことは、大きな負担となることから、企業と地域のそれぞれで「あるもの」を提供しあい、無理のない活動にしていけるとよいでしょう。

POINT

既に所有しているものを活用して負担を減らそう

社会貢献活動に必要となる費用は、活動の手法や種類、参加者の規模等によって様々です。

必要となる予算の一例としては、交通費や食費、宿泊費、活動費（地域との交流を含む）、保険料、資機材等の購入・レンタル費、資機材の燃料費等があげられます。

必要な機材等をリストアップし、企業や地域で既に所有しているものがあれば活用するなど、活動の継続・発展のために、過度の負担とならないように配慮することが大切です。

コラム

自社の保有する資機材等の無理のない範囲での提供

ある企業では、集落の支援活動に参加する際には、自社保有の資機材等で提供できるものがあれば、無理のない範囲で協力することとしています。

また、自社で保有している資機材等を使った方が効率的である作業を行う際には、資機材等の使用の提案を行うように努めています。



自社の草刈機等を持参した活動

取組手引書 P53

取組手引書 P95

⑩活動当日のスケジュールはどのように組めばよい？

Q。社員から参加者を募り、現地での直接的な支援を行おうと思います。当日のスケジュールはどのように組めばよいでしょうか？

A。作業に必要な時間等を地域に確認を取りながらスケジュールを検討していきましょう。
慣れない作業で思わぬ時間をとられることもあります。余裕のあるスケジュール設定にも心がけましょう。

POINT 当日のスケジュールの例

当日のスケジュールについて、森林保全活動を例にとって紹介します。

①半日程度の活動スケジュール例

午前中に活動を行うことで、夏場における熱射病対策等につながるとともに、参加者にとっても時間的制約が限られることから、参加しやすい活動になります。

また、昼食時に、地域の方々との交流を行うケースも見られます。

②1泊2日の活動スケジュール例

1泊2日の活動スケジュール例として「とっとり日通の森」における森林育成活動を紹介します。

宿泊のある工程とすることで、地元の郷土料理を食べたり、夜にイベントを実施したりすることができ、地域住民との様々な交流機会の創出が可能になります。

また、2日目には、自然体験活動等のオプション活動を設定し、参加者の楽しみとなっています。

■半日程度のスケジュール例

9:00	現地集合(〇〇公民館前)
9:00~9:20	開会 ・挨拶(地域代表者) ・作業の説明
9:20~9:30	移動及び作業準備
9:30~11:30	作業実施 ・グループごとに随時、休憩や水分補給等を行うこと。
11:30~11:40	後片付け
11:40~12:00	閉会 ・挨拶(地域代表者) ・挨拶(企業代表者)
12:00~13:00	懇親会

■1泊2日のスケジュール例

月日	11月14日(土)	11月15日(日)
7:00		
8:00	新幹線及び在来線 8:00頃 各駅発	朝食 「日南島」内 8:00 日南島出発
9:00	 11:57分(岡山方面から)、12:58分(米子方面から)、JR山山(ソウヤ?)駅発バス移動	●オプション(昼食込み)別料金 8:30~13:00 ○花見山登山 ー紅葉も弁当ー ○モチつき体験 ー日南のモチ米ー
10:00	「日南島」到着 ①チェックイン 12:20~ ②朝食 12:30 ③各自着替え 12:50	
11:00	13:00~13:45 (会場:研修棟) ●開会セレモニー	12:30ー 日南町役場へバス移動 ●閉会セレモニー 12:30~13:30 役場庁舎見学 13:30~13:40 閉会式
12:00	13:50ー バスで現場へ移動(30分程度) 14:00~15:45 ●森林育成活動 ①枝打ち・間伐作業 ②遊歩道整備 ③クリ周辺整備 ④シイタケ植菌	13:40~13:50 山山駅(ソウヤ?)バス移動 岡山方面 14:02発 米子方面 14:36発
13:00	終了後 バスにて宿泊先へ移動 16:00ーバスにて温泉へ(片道15分) ※希望者はバスで温泉入浴へ 日南島のお風呂は狭いので、バスで神保温泉の利用をお勧めします。入浴料金は会社がすべて負担いたします。	11/14(土) 森林育成活動に必要な持ち物 ①高輪・長式ポン (ハチ防止のため黒色以外がよい) ②化膿品もハチの刺傷になりやすい ③リュックサック又はウェストポーチ (飲み物やタオル・虫除け等入れる) ④長靴 ⑤軍手(滑り止め付き) ⑥雨具(上下のセット) ⑦タオル ⑧着替え(必要ならば宿泊先まで送迎) ⑨ゼリーや膏 (ごみや濡れたものを入れる)
14:00	18:30~ ●懇親会「日南島」 1階 宴会場にて	
15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		

⑪活動を定着・継続していくためには？

Q、今後も活動を継続していきたいと思います。よりよい活動とするためにはどのようなことをしていってほしいでしょうか？

A、よりよい活動となるよう、活動の改善点を整理し、必要に応じて見直しを行っていきましょう。
 そのために、アンケートなどで参加者の意見を聞いたり、地域と意見交換を行うとよいでしょう。

POINT1 アンケートで参加者の意見を集めよう

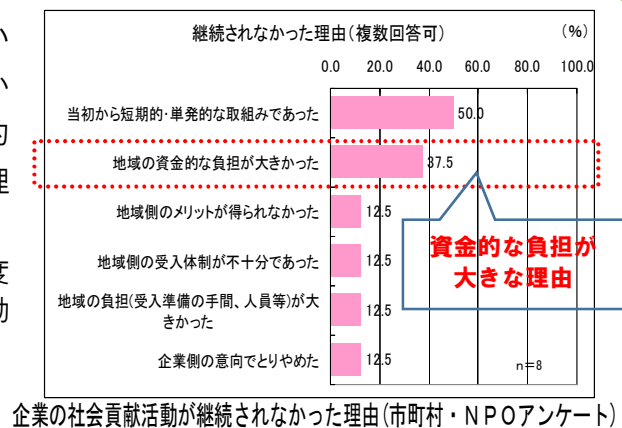
活動の定着・継続には、参加者や地域住民の意向が非常に重要です。
 活動に対する感想や継続意向、運営側が気づかなかつたスケジュールや費用等の問題、トラブル等を確認するため、企業・地域双方が協力してアンケートを行うとよいでしょう。
 活動が終わったその場で行えば、配布・回収の手間も省けますよ。

POINT2 地域と改善点を話し合おう

「参加者の評価はどうか」、「活動の準備や実施等に不備はなかったか」、「双方に過度の負担が生じていないか」など、アンケートの結果等から活動に対する課題・問題点を整理しましょう。
 それを元に、企業・地域それぞれの課題・問題点等を持ち寄り、次の活動に向けた改善点等を話し合い、必要があれば活動の見直しを行っていきましょう。

コラム 【アンケート調査より】社会貢献活動が継続されなかった理由

市町村・NPOアンケートにおいて、社会貢献活動が継続されなかった理由をみると、「地域の資金的な負担が大きかった」が大きな理由となっています。
 継続のためには、地域への過度の負担をかけず、無理の無い活動としていくことが必要です。



第二編 自治体等の方へ

①どのような手順で取組めばよい？	12
②連携相手となる企業を探す前にやるべきことは？	13
③連携相手となる企業を探すには？	14
④参加者同士の交流は必要？	16
⑤活動を定着・継続していくためには？	17

①どのような手順で取組めばよい？

Q 地域の課題解消のため、企業の社会貢献活動を受け入れたいと思うのですが、どのような手順で取組めばよいですか？

A 活動の受入に必要な基本的な流れを以下にお示しします。
個々の活動における具体の検討は、それぞれの企業・地域の特性や実情に応じて、適宜、創意工夫を行いながら進めていくとよいでしょう。

POINT

取組の手順

(1) 企業の応援活動を受入れるにあたって

人口減少や高齢化等により、森林や農地の管理、集落の共同作業等が困難となる地域では、人手の確保等に向けた企業の社会貢献活動を受入れることが一つの解決策となります。

地域住民との話し合い等により、企業の社会貢献活動に何を期待するかを明確にしたうえで、企業を迎え入れることの合意や体制づくりに取組みます。

(2) 連携相手となる企業を探そう

企業の応援活動に求める内容等を踏まえ、社会貢献活動に取り組む意向を有している企業を探していきます。地域からの積極的なアプローチを行い、企業との話し合いを経て、合意を図っていきます。

(3) 活動計画の確認、調整、提案を行おう

連携相手となる企業との話し合いを行いながら、企業が作成する活動計画の確認・調整を行うとともに、活動に対する提案を行います。

(4) おもてなしを意識しよう

企業が作成した活動計画に基づき、企業との協働により活動を実施します。活動の実施にあたっては、地域として無理のない「ちょっとしたおもてなし」をすることに努めましょう。

(5) 活動の評価・検証を行おう

地域側の参加者の意向を確認し、企業との話し合いを通じて、活動の継続や改善等に向けた検討に取り組み、活動計画の改善に向けた提案等を行っていきます。また、活動結果を整理し、幅広い情報発信に努めます。



②連携相手となる企業を探す前にやるべきことは？

Q。企業を探す前に地域でやっておいたほうがよいことはありますか？

A まずは、企業に助けてもらいたい「地域のお困り事」の整理を行うと良いでしょう。
また、地域に外部から人が入ってくことに消極的な住民もいることが予想されることから、地域内で企業の受入に対する意識を醸成していくことも重要です。

POINT1 まずは、地域で行う共同作業や年間行事の整理から

連携相手となる企業を探す前に、どのようなことをしてもらいたいかを整理する必要があります。

しかし、「企業に何をしてもらいたいか」、「地域で困っていることは何か」と聞かれても、すぐには意見が出てこないかもしれません。

そんな時は、地域で行う共同作業や年間行事を整理してみましょう。

年間行事を一つ一つ確認することで、例えば、「夏に地域で共同で行う道路の草刈は、範囲が広くて大変」、「最近、秋のお祭りでお神輿を担ぐ人手が少なくて困っている」など、助けてほしい「地域のお困り事」が見えてくるかもしれません。



POINT2 企業の受入に対する意識を醸成しよう

企業と地域住民が協力・連携した取組を進めていくためには、地域が一体となって取組む必要があります。しかし、住民の中には地域に外部から人が入ってくことに消極的な人もいることでしよう

企業の社会貢献活動を受入れることで地域に生じるメリット・デメリット等について、しっかり地域内で話し合いを行い、地域内で企業の受入に対する意識を醸成していくことが重要です

コラム 地域住民の参加者が少ないために生じた不信感

ある企業が、社会貢献活動として集落の共同作業の支援に訪れた際に、企業の参加者が10名程度であったのに対して、地域住民の参加が3名にとどまっていました。しかしながら、地域住民の他の人達は、普段通りに生活をしてきたことから、「集落の共同作業の支援」という依頼に対する不信感が生じることになりました。

地域においては、集落の共同作業として地域住民に声をかけていたものの、当日の参加を断られたことが原因ですが、企業の信頼を得るためにも、地域住民が一体となって取組むことが必要です。

➡ 取組手引書 P75

③連携相手となる企業を探すには？

Q。連携相手となる企業を探すにはどうしたらよいでしょうか？

A 地元の企業や地域に所縁のある企業への打診、県やNPO等への問い合わせ、HPや広報等を用いた企業の募集等を行い、企業の情報収集をしましょう。
また、地域の課題など、支援してもらいたいことについて情報発信するなど、企業への様々なアプローチを行うことも効果的です。

POINT1 地域の情報を発信しよう

地域が発信する情報は、企業が、活動を行う地域や内容等検討する際の重要な判断材料になることから、地域の課題など、支援してもらいたいことについて積極的に情報発信していきましょう。

地域で支援してほしい内容を発信することで、企業としても活動の目的が明確になり、自分たちがその地域で活動した場合に、地域の課題解消に役立てるかの判断がしやすくなります。

また情報発信の際には、活動に必要な知識・ノウハウや必要な人数・資機材なども発信すれば企業も具体的な活動内容・規模についてイメージしやすくなります。

□情報を発信するとよい項目

- ・ 地域の特徴
- ・ 希望する活動内容
- ・ 協力体制
- ・ 企業に対する要望等、活動に必要な経費項目 など

POINT2 地域と企業を結びつけるストーリーづくりをしよう【再掲】 P20

企業を探す際には、「企業活動と何らかの所縁ある地域を探す」など、テーマを設定すると、連携相手を見つけやすいかもしれません。

例えば、飲料水や工場等の事業者の場合、「取水している河川の上流にある森林の保全活動をすることが、安定した水資源の確保につながり、会社の利益にもなる」といったストーリーを提示すれば、森林保全の活動場所として興味を持ってもらえるかもしれません。

「企業の創業者の出身地」、「扱っている商品名と同じ地名」といったテーマを設定した事例もあります。

POINT 3 県やNPO等にお問い合わせをしよう

地域の課題や企業の社会貢献活動に求める内容等を整理した上で、県の担当部局に対して、企業の社会貢献活動を迎え入れたい旨の問い合わせを実施してみましょう。

また、NPOの中には、企業と連携した取組を進めている団体があることから、地域で活動しているNPOがいる場合は、そのNPOに対して、企業の社会貢献活動を迎え入れたい旨の問い合わせを実施し、企業等の紹介を依頼することも効果的と考えられます。

【参考：中国地方における各県のCSRに関する取組】

■鳥取県

協働提案サポートデスク：<http://www.pref.tottori.lg.jp/supportdesk/>

とっとり共生の森：<http://www.pref.tottori.lg.jp/100905.htm>

■島根県

島根県民活動応援サイト 島根いきいき広場：<https://www.shimane-ikiiki.jp/>

しまね企業参加の森づくり：

<http://www.pref.shimane.lg.jp/shinrinseibi/kigyounomori/kigyousanka.html>

■岡山県

企業との協働の森づくり事業：<http://www.pref.okayama.jp/page/289369.html>

おかやま元気！集落応援団（岡山県及び岡山県中山間地域協働支援センター(NPO)）：

<https://sites.google.com/a/okayama-genki.jp/12/>

■広島県

ひろしまの森づくり事業：<http://www.moridukuri.net/index.php>

■山口県

水を守る森林づくり促進事業：

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17700/mizumamoru/mizumoru.html>

山口県森林整備等CO2削減認証制度：

http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17700/co2_ninsyou/gaiyou.html



取組手引書 P77

④参加者同士の交流は必要？

Q。参加者同士の交流は必要でしょうか？ また、交流を行う場合はどのようなことをすればよいでしょうか？

A 地域として「ちょっとしたおもてなし」をすることで、企業側の参加者に活動への参加の楽しみの提供や地域への愛着を生み出すきっかけとなり、活動の継続にもつながることが期待されます。
無理のない範囲で、地域でできることを検討してみましょう。

POINT 無理のない範囲での「おもてなし」を検討してみよう

既存の取組では、企業の参加者に対して、地域住民から地元の新鮮な農作物を活かした料理や加工品（漬物等）、飲料（地元のお茶等）が振舞われるケースが見受けられます。

これらの「おもてなし」は、企業の参加者にとって、社会貢献活動の参加に対する楽しみや地域への愛着を高める機会となっています。

また、人口減少や高齢化が進む地域住民にとっても、企業の参加者とコミュニケーションをとることが、楽しみの一つとなっています。

ただし、あくまでも「無理のない範囲」で行いましょう。「おもてなし」をがんばりすぎた結果、それが負担となって活動の継続に支障が出るようになってしまうと本末転倒です。



活動後の企業との懇親会

取組手引書 P83

⑤活動を定着・継続していくためには？

Q。今後も活動を継続していきたいと思います。よりよい活動とするためにはどのようなことをしていってよいか？

A 活動を定着・継続していくために、参加者から意見を聞き取り、改善点を整理して、より良い活動となるように企業と話し合いながら計画の見直しを行っていきましょう。

POINT 企業と活動の課題・問題点を話し合おう

参加者に対するアンケートやヒアリング等を行い、企業の社会貢献活動を受入れる立場としての課題・問題点等を取りまとめましょう。

とりまとめた結果をもとに、企業との話し合いを行い、地域側の意見を積極的に発言し、より良い活動につなげていきましょう。

参加者の「達成感・充実感」を得られるような活動内容やイベント等の提案を行えば、活動の継続・発展にもつながります。

■課題・問題点を整理するときの視点

- ・活動の継続に問題はないか
- ・地域の課題解決の一助となっているか
- ・地域住民の評価は得られているか
- ・活動の準備や実施等に不備はなかったか
- ・活動に関して過度の負担が生じていないか

⇒ 取組手引書 P84

第三編 企業と地域を結びつける 中間支援組織の役割

①中間支援組織の役割は？	18
②企業や地域の情報を把握するためには？	19
③マッチングにおける留意点は？	20

① 中間支援組織の役割は？

中間支援組織の役割としてはどのようなものが挙げられますか？

Q

A

中間支援組織に期待される役割は、企業と地域のマッチングから、活動当日の参加、活動後のフォローアップなど、活動全般にわたっていますが、特にマッチング段階においてその役割を果たすことが期待されています。

また、活動領域が広く、豊富なノウハウのある NPO が中間支援組織を設立することにより、地域住民と数多くのワークショップを重ねることで、様々な地域ニーズを引き出ししたり、地域リーダーを育成するなど、幅広い効果が期待されます。

POINT

中間支援組織の役割

中間支援組織には、以下のような役割が期待されています。

役割	内容
企業の社会貢献活動による支援が必要な集落等の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や高齢化が著しい集落等の把握 ・共同作業等が困難となりつつある集落等の把握 ・必要とする支援の内容等の把握
社会貢献活動に取り組む意向を有する企業等の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域等における社会貢献活動に取り組む意向のある企業等の募集・登録 ・企業が実施することが可能な社会貢献活動の内容や対応可能な場所・時期等の把握
企業・集落等のそれぞれの情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・企業・集落等のそれぞれの情報発信 ・社会貢献活動に取り組む意向のある企業への情報提供 ・企業の社会貢献活動を受入れる意向のある集落等への情報提供
企業と集落等のマッチング	<ul style="list-style-type: none"> ・企業と集落等のそれぞれの要望に応じた連携相手の仲介 ・集落等が求める支援の内容に応じて登録企業等への活動依頼
活動計画の作成支援	<ul style="list-style-type: none"> ・企業と集落等の活動計画の作成における調整、アドバイス ・企業と集落等の活動における調整
活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・企業と集落等の連携活動への支援 ・必要に応じて資機材等の支援
活動のPR	<ul style="list-style-type: none"> ・連携活動に取り組む企業等のPR（登録企業等のHP等での公表） ・マスコミへのPR、HPやパンフレット等による活動のPR
活動結果の評価・検証	<ul style="list-style-type: none"> ・活動結果を踏まえた企業と集落等の話し合いの支援 ・他の活動事例等の紹介、改善点の提案
活動の拡大・発展に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・活動事例のとりまとめ（パンフレット等の作成）、PR ・優れた活動を行っている企業等の表彰



取組手引書 P88

②企業や地域の情報を把握するためには？

Q。企業と地域のマッチングのため、「お困りごと」を抱えている地域の情報を収集しようとしていますが、なかなか地域から情報を引き出せません。

A 地域住民だけでは、地域の課題等の整理ができず、支援を求める声を上げることが難しいこともあります。
中間支援組織側がワークショップを行うなど積極的に地域に入り込んで、地域のニーズ・地域の情報を引き出していくことが期待されます。
また、企業についても、ヒアリングなどを実施し、活動の目的や活動内容・活動場所についての要望などのマッチングに必要な情報を整理していきましょう。

POINT

地域が必要としていることを明確にする手助け

地域で助けてほしい内容が明確でない場合、活動の目的も不明確になり、社会貢献活動の目的意識が高い企業ほど、自分たちの活動が地域の課題解消に役立っているのか判断できず、活動の評価が悪くなることが考えられます。

しかし、地域住民だけでは「どのようなことに困っているのか」「どのような支援があれば解消できるのか」といったことの整理が難しいこともあります。

そこで、中間支援組織がヒアリングやワークショップなどを通して地域に入り込み、不足していることの洗い出しや、助けてもらいたいことを明確化する手助けを行うと効果的です。

コラム

ワークショップで地域が必要としていることを明確化

NPOが運営する岡山県中山間地域協働支援センターでは、地域のニーズやシーズをきめ細かく聞き出すため、電話、ヒアリング、ワークショップ等を行っています。

地域住民だけでは、助けてもらいたい内容が明確にできないことが多いという現状があります。そこで、各地域でワークショップを行い、地域の年間行事を作る中で、不足していることの洗い出しや助けてもらいたいことを明確にする手助けをしています。



取組手引書 P88

③マッチングにおける留意点は？

Q。企業と地域をマッチングする際の留意点としてはどのようなものがあるでしょうか？

A 企業と地域、企業が活動するためのテーマ設定に無理がないか、地域が企業の技術等が活かせるかなど、情報を俯瞰して、地域の最もふさわしい連携相手をマッチングしましょう。

POINT1 地域と企業を結びつけるストーリーづくり【再掲】(P14)

企業を探す際には、「企業活動と何らかの所縁ある地域を探す」など、テーマを設定すると、連携相手を見つけやすいかもしれません。

例えば、飲料水や工場等の事業者の場合、「取水している河川の上流にある森林の保全活動をすることが、安定した水資源の確保につながり、会社の利益にもなる」といったストーリーを提示すれば、森林保全の活動場所として興味を持ってもらえるかもしれません。

「企業の創業者の出身地」、「扱っている商品名と同じ地名」といったテーマを設定した事例もあります。

POINT2 エリア内を上手くマネジメント

課題を抱える地域は数多くあり、地域が抱える課題の深刻度合いや支援を必要とする度合い等は様々です。企業からの支援が偏らないよう、エリア内を上手くマネジメントしていきましょう。

POINT3 受入意識の醸成

地域に外部から企業などが入ってくることに對して、よい感情を持たない住民もいます。自治体等と連携して、地域内で話し合いの場を設けるなど、企業を受入れに對する地域住民の意識の醸成を図りましょう。

POINT4 コミュニティビジネスも視野に入れたマッチング

企業を活動に参画しやすくするため、企業が有する技術・ノウハウ等の得意分野を把握した上で、地域の「ウリ」となるモノ（場所、産品等）と結びつけることでコミュニティビジネスとして展開することも意識してマッチングしましょう

 取組手引書 P88